

「ケンミジンコのメス(1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

メダカのえさ(食物)になるプランクトンは、自然、人工を問わず、池やちょっとした水のたまった場所(たとえば側溝の隅)、それに教室の水槽にも、ほぼ100%存在する。プランクトンは、あまりにも小さいので、「何かがあるな」とはわかるが、何があるのかはわからない。しかし、一部の動物性プランクトン…例えばミジンコの仲間、ケンミジンコの仲間は、よく目を凝らすと、水中で泳ぐ姿を発見できる。



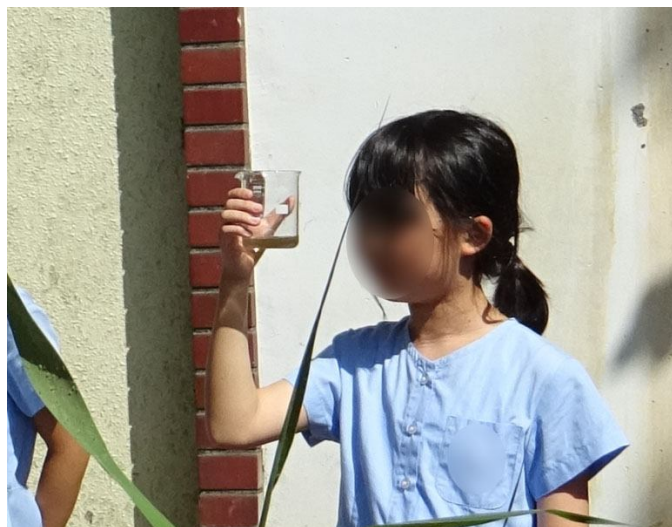
小学校の校庭にある壁泉(ライオン池)は、まさにプランクトンの宝庫だ。この池には小魚やドジョウも住み着いている。特に餌は与えていないのに、いつの間にか増えている。



子どもは目がいいので、ミジンコやケンミジンコを肉眼で発見して、スポイトで採取するという神業をやっている。私も子どもの時に、学校の小さな田んぼで、ミジンコをたくさん採って、金魚に与えていた。



壁泉は小さいながらも、適度に風致されて、多様な環境を維持している。こうした水草の隙間の泥には、ツリガネムシのような底着性の動物プランクトンが多い。



採取した水の入ったビーカーをじっと見る女児。どうやら、中で動く「小さな黒い点」を発見したようだ。恐らく「カイミジンコ」の仲間だろう。



ビーカーを理科室に持ち帰り、さっそくケンミジンコ探しにとりかかった。見つけれられるだろうか?